

拡張モジュールについてのご注意

この文書は、弊社インテリジェントスイッチ用拡張モジュールについて、付属のガイドに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこの文書をよくお読みになり、製品を正しくご使用ください。

1. 対応機種、ソフトウェアバージョン

拡張モジュールを使用する場合は、弊社インテリジェントスイッチ本体に各拡張モジュール対応のソフトウェアが搭載されている必要があります。対応可能な機種、およびソフトウェアバージョンは下表の通りですので、ご確認の上ご使用ください。

対応機種 モジュール	CentreCOM 8216FXL/SC	CentreCOM 8216FXL/SMSC	CentreCOM 8224XL	CentreCOM 9006SX/SC	CentreCOM 9006T
AT-A14	2.1.0J 以降	2.2.0J 以降	1.2.12J 以降	1.0.5J 以降	2.0.1J 以降
AT-A15/SX AT-A15/LX	1.2.8J 以降	2.2.0J 以降	1.2.4J 以降	1.0.5J 以降	2.0.1J 以降
AT-A17	1.2.8J 以降	2.2.0J 以降	1.1.3J 以降	2.1.0J 以降	2.0.1J 以降
AT-A18	1.2.8J 以降	2.2.0J 以降	1.1.3J 以降	2.1.0J 以降	2.0.1J 以降

各ソフトウェアの最新バージョンは、弊社ホームページ (<http://www.allied-teselis.co.jp>) より、ダウンロードが可能です。

2. 注意事項

2.1 拡張モジュール全モデルについて

拡張モジュールの差し替えや下段 (スロットB) への追加を行った場合、アップリンクポートに関する各オプションの画面表示や設定が、デフォルト値ではなく、差し替え前や上段 (スロットA) のモジュールと同じ内容になることがあります。

拡張モジュールの差し替えや追加を行った場合は、各アップリンクポートでサポートされているオプションをマニュアルで確認の上、必要に応じて設定をなおしてください。

2.2 AT-A15 について

AT-A15を使用する場合は、スイッチ本体に電源を入れてから、光ファイバーケーブルの接続を行うようにしてください。また、通信に問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。

光ファイバーケーブルのTXもしくはRXのどちらか一方のみを抜き差ししないでください。光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ずTXとRXの両方を行ってください。

1000BASE-Xポート同士の通信において(AT-A15同士、CentreCOM 9006SX/SC同士、AT-A15 と CentreCOM 9006SX/SC のカスケード接続)、ソフトウェアバージョンの組合せによっては、正しく通信できない場合があります。1000BASE-Xポート同士の通信を行う場合は、必ずスイッチ本体を以下に示すソフトウェアにバージョンアップしてからご使用ください。

CentreCOM 8216FXL/SC :バージョン 2.0.0J 以降
CentreCOM 8224XL :バージョン 1.2.12J 以降
CentreCOM 9006SX/SC :バージョン 1.0.5J 以降

1000BASE-Xポートは、[Port status and configuration]メニュー内において、通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-Xポートの場合、AT-A15出荷時点で他の検証機器がないため、AT-A15同士、および弊社インテリジェントスイッチ製品(CentreCOM 9006SX/SC、CentreCOM 8216XL)との検証のみを実施しています。